

# **Oracle® Application Server ProcessConnect**

インストール・ガイド

10g (9.0.4) for Solaris Operating System (SPARC)

部品番号 : B12371-01

2004 年 4 月

Oracle Application Server ProcessConnect インストール・ガイド, 10g (9.0.4) for Solaris Operating System (SPARC)

部品番号 : B12371-01

原本名 : Oracle Application Server ProcessConnect Installation Guide, 10g (9.0.4) for Solaris Operating System (SPARC)

原本部品番号 : B10867-01

原本著者 : Mark Kennedy

原本協力者 : Deanna Bradshaw, Saumitra Chatterjee, Dan Chiba, Clement Lai, Poonam Karkhanis, Mahadevan Lakshminarayanan

Copyright © 2003 Oracle Corporation. All rights reserved.

#### 制限付権利の説明

このプログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）には、オラクル社およびその関連会社に所有権のある情報が含まれています。このプログラムの使用または開示は、オラクル社およびその関連会社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権と工業所有権に関する法律により保護されています。

独立して作成された他のソフトウェアとの互換性を得るために必要な場合、もしくは法律によって規定される場合を除き、このプログラムのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更される場合があります。オラクル社およびその関連会社は、このドキュメントに誤りが無いことの保証は致し兼ねます。これらのプログラムのライセンス契約で許諾されている場合を除き、プログラムを形式、手段（電子的または機械的）、目的に関係なく、複製または転用することはできません。

このプログラムが米国政府機関、もしくは米国政府機関に代わってこのプログラムをライセンスまたは使用する者に提供される場合は、次の注意が適用されます。

#### U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation, and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the Programs, including documentation and technical data, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement, and, to the extent applicable, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software--Restricted Rights (June 1987). Oracle Corporation, 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このプログラムは、核、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションへの用途を目的としておりません。このプログラムをかかるとして使用する際、上述のアプリケーションを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることが使用者の責任となります。万一かかるプログラムの使用に起因して損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

Oracle は Oracle Corporation およびその関連会社の登録商標です。その他の名称は、Oracle Corporation または各社が所有する商標または登録商標です。

---

---

# 目次

<b>はじめに</b> .....	iii
対象読者 .....	iv
ドキュメントの構成 .....	iv
関連ドキュメント .....	iv
表記規則 .....	v
 <b>1 インストールの概要</b>	
Oracle Application Server ProcessConnect のコンポーネントの概要 .....	1-2
インストールのシナリオ .....	1-3
シナリオ 1: Oracle Application Server ProcessConnect の OracleAS Infrastructure 10g との構成 .	1-4
シナリオ 2: Oracle Application Server ProcessConnect の Oracle9i Enterprise Edition との構成 ...	1-4
インストール作業の概要 .....	1-5
 <b>2 インストールの必要条件</b>	
インストール前の準備作業 .....	2-2
ステップ 1: 現行リリースの Oracle Application Server Metadata Repository のインストール、 または現行リリースへのアップグレード .....	2-2
ステップ 2: 「J2EE and Web Cache」インストール・タイプの Oracle Application Server の インストール .....	2-3
ステップ 3: ユーザー名とパスワードの取得 .....	2-3
ステップ 4: Oracle Enterprise Manager Application Server Control の停止 .....	2-5

必要条件の概要 .....	2-5
システムの要件 .....	2-5
移行に関する制限 .....	2-7
RosettaNet パートナ・インタフェース・プロセスのサポート .....	2-7
アプリケーション・アダプタの要件 .....	2-7
Oracle Workflow の要件 .....	2-7
Oracle Workflow で使用する追加言語のインストール .....	2-8
Oracle Workflow と Oracle E-Business Suite 11i に関する注意事項 .....	2-10
Oracle Application Server ProcessConnect および Oracle Application Server InterConnect とともに Oracle Workflow を使用する場合 .....	2-10
グローバル化の要件 .....	2-10

### 3 インストール手順

インストール作業 .....	3-2
Oracle Application Server ProcessConnect のインストール .....	3-5
Oracle Application Server Integration アダプタのインストール .....	3-10
インストール後の構成作業 .....	3-12
インストール後の確認作業 .....	3-13
ディレクトリ構造 .....	3-14
削除作業 .....	3-14
サイレント・インストール（非対話式） .....	3-15
Oracle Application Server Metadata Repository .....	3-15
Identity Management Access .....	3-16
インストールと構成に関するトラブルシューティング .....	3-18
ProcessConnect Configuration Assistant のエラーのトラブルシューティング .....	3-18

## 索引

---

# はじめに

このガイドは、Oracle Application Server ProcessConnect のインストールに関する情報の基本となるものです。

この章では、次の項目について説明します。

- [対象読者](#)
- [ドキュメントの構成](#)
- [関連ドキュメント](#)
- [表記規則](#)

## 対象読者

『Oracle Application Server ProcessConnect インストール・ガイド』は、Oracle Application Server ProcessConnect と Oracle Application Server Integration アプリケーション・アダプタをインストールするユーザーを対象としています。

## ドキュメントの構成

このドキュメントは、次の各章から構成されています。

### 第1章「インストールの概要」

Oracle Application Server ProcessConnect をインストールするときのシナリオと、各シナリオでのインストール作業の概要を説明します。

### 第2章「インストールの必要条件」

Oracle Application Server ProcessConnect をインストールするための必要条件を説明します。

### 第3章「インストール手順」

Oracle Application Server ProcessConnect および Oracle Application Server Integration アプリケーション・アダプタをインストールする方法について説明します。

## 関連ドキュメント

詳細は、次の Oracle ドキュメントを参照してください。

リリース・ノート、インストール関連ドキュメント、ホワイト・ペーパーまたはその他の関連ドキュメントは、OTN-J (Oracle Technology Network Japan) から、無償でダウンロードできます。OTN-J を使用するには、オンラインでの登録が必要です。登録は、次の Web サイトから無償で行えます。

<http://otn.oracle.co.jp/membership/>

すでに OTN-J のユーザー名およびパスワードを取得している場合は、次の URL で OTN-J Web サイトのドキュメントのセクションに直接接続できます。

<http://otn.oracle.co.jp/document/>

# 表記規則

この項では、このマニュアルの本文およびコード例で使用される表記規則について説明します。この項の内容は次のとおりです。

- [本文の表記規則](#)
- [コード例の表記規則](#)
- [Microsoft Windows オペレーティング・システム環境での表記規則](#)

## 本文の表記規則

本文では、特定の項目が一目でわかるように、次の表記規則を使用します。次の表に、その規則と使用例を示します。

規則	意味	例
太字	太字は、本文中で定義されている用語および用語集に記載されている用語を示します。	この句を指定すると、 <b>索引構成表</b> が作成されます。
固定幅フォントの大文字	固定幅フォントの大文字は、システム指定の要素を示します。このような要素には、パラメータ、権限、データ型、 <b>Recovery Manager</b> キーワード、 <b>SQL</b> キーワード、 <b>SQL*Plus</b> またはユーティリティ・コマンド、パッケージおよびメソッドがあります。また、システム指定の列名、データベース・オブジェクト、データベース構造、ユーザー名およびロールも含まれます。	NUMBER 列に対してのみ、この句を指定できます。  BACKUP コマンドを使用して、データベースのバックアップを作成できます。  USER_TABLES データ・ディクショナリ・ビュー内の TABLE_NAME 列を問い合わせます。  DBMS_STATS.GENERATE_STATS プロシージャを使用します。
固定幅フォントの小文字	固定幅フォントの小文字は、実行可能ファイル、ファイル名、ディレクトリ名、ユーザーが指定する要素のサンプルを示します。このような要素には、コンピュータ名およびデータベース名、ネット・サービス名および接続識別子があります。また、ユーザーが指定するデータベース・オブジェクトとデータベース構造、列名、パッケージとクラス、ユーザー名とロール、プログラム・ユニットおよびパラメータ値も含まれます。  <b>注意：</b> プログラム要素には、大文字と小文字を組み合わせて使用するものもあります。これらの要素は、記載されているとおりに入力してください。	sqlplus と入力して、 <b>SQL*Plus</b> をオープンします。  パスワードは、orapwd ファイルで指定します。  /disk1/oracle/dbs ディレクトリ内のデータ・ファイルおよび制御ファイルのバックアップを作成します。  hr.departments 表には、department_id 列、department_name 列および location_id 列があります。  QUERY_REWRITE_ENABLED 初期化パラメータを true に設定します。  oe ユーザーとして接続します。  JRepUtil クラスが次のメソッドを実装します。

規則	意味	例
固定幅フォントの小文字のイタリック	固定幅フォントの小文字のイタリックは、プレースホルダまたは変数を示します。	<i>parallel_clause</i> を指定できます。 <i>Uold_release</i> .SQL を実行します。ここで、 <i>old_release</i> とはアップグレード前にインストールしたリリースを示します。

### コード例の表記規則

コード例は、SQL、PL/SQL、SQL\*Plus または他のコマンドライン文の例です。次のように固定幅フォントで表示され、通常のテキストと区別されます。

```
SELECT username FROM dba_users WHERE username = 'MIGRATE';
```

次の表に、コード例で使用する表記規則とその使用例を示します。

規則	意味	例
[ ]	大カッコは、カッコ内の項目を任意に選択することを表します。大カッコは、入力しないでください。	DECIMAL ( <i>digits</i> [ , <i>precision</i> ])
{ }	中カッコは、カッコ内の項目のうち、1 つが必須であることを表します。中カッコは、入力しないでください。	{ENABLE   DISABLE}
	縦線は、大カッコまたは中カッコ内の複数の選択項目の区切りに使用します。項目のうちの 1 つを入力します。縦線は、入力しないでください。	{ENABLE   DISABLE} [COMPRESS   NOCOMPRESS]
...	<div>           水平の省略記号は、次のいずれかを示します。           <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 例に直接関連しないコードの一部が省略されている。</li> <li>■ コードの一部を繰り返すことができる。</li> </ul> </div>	CREATE TABLE ... AS <i>subquery</i> ;  SELECT <i>col1</i> , <i>col2</i> , ... , <i>coln</i> FROM employees;
.	垂直の省略記号は、例に直接関連しない複数の行が省略されていることを示します。	
その他の記号	大カッコ、中カッコ、縦線および省略記号以外の記号は、記載されているとおりに入力する必要があります。	acctbal NUMBER(11,2);  acct        CONSTANT NUMBER(4) := 3;



規則	意味	例
イタリック体	イタリック体は、特定の値を指定する必要があるプレースホルダや変数を示します。	CONNECT SYSTEM/ <i>system_password</i> DB_NAME = <i>database_name</i>
大文字	大文字は、システム指定の要素を示します。これらの要素は、ユーザー定義の要素と区別するために大文字で示されます。大カッコ内にないかぎり、表示されているとおりの順序および綴りで入力します。ただし、大 / 小文字が区別されないため、小文字でも入力できます。	SELECT last_name, employee_id FROM employees;  SELECT * FROM USER_TABLES;  DROP TABLE hr.employees;
小文字	小文字は、ユーザー指定のプログラム要素を示します。たとえば、表名、列名またはファイル名などです。  <b>注意：</b> プログラム要素には、大文字と小文字を組み合わせて使用するものもあります。これらの要素は、記載されているとおりに入力してください。	SELECT last_name, employee_id FROM employees;  sqlplus hr/hr  CREATE USER mjones IDENTIFIED BY ty3MU9;

## Microsoft Windows オペレーティング・システム環境での表記規則

次の表に、Microsoft Windows オペレーティング・システム環境での表記規則とその使用例を示します。

規則	意味	例
ファイル名およびディレクトリ名	ファイル名およびディレクトリ名は大 / 小文字が区別されません。特殊文字の左山カッコ (<)、右山カッコ (>)、コロン (:)、二重引用符 (")、スラッシュ (/)、縦線 ( ) およびハイフン (-) は使用できません。円記号 (¥) は、引用符で囲まれている場合でも、要素のセパレータとして処理されます。Windows では、ファイル名が ¥¥ で始まる場合、汎用命名規則が使用されていると解釈されます。	c:¥winnt"¥"system32 は C:¥WINNT¥SYSTEM32 と同じです。
Windows コマンド・プロンプト	Windows コマンド・プロンプトには、カレント・ディレクトリが表示されます。コマンド・プロンプトのエスケープ文字はカレット (^) です。プロンプトは作業中のサブディレクトリを示します。このマニュアルでは、コマンド・プロンプトと呼びます。	C:¥oracle¥oradata>
特殊文字	Windows コマンド・プロンプトで二重引用符 (") のエスケープ文字として円記号 (¥) が必要な場合があります。丸カッコおよび一重引用符 (') にはエスケープ文字は必要ありません。エスケープ文字および特殊文字の詳細は、Windows オペレーティング・システムのドキュメントを参照してください。	C:¥>exp scott/tiger TABLES=emp QUERY=¥"WHERE job='SALESMAN' and sal<1600¥"  C:¥>imp SYSTEM/password FROMUSER=scott TABLES=(emp, dept)
HOME_NAME	Oracle ホームの名前を表します。ホーム名には、英数字で 16 文字まで使用できます。ホーム名に使用可能な特殊文字は、アンダースコアのみです。	C:¥> net start OracleHOME_ NAMETNSListener

---

# インストールの概要

この章では、Oracle Application Server ProcessConnect をインストールするときのシナリオと、各シナリオでのインストール作業の概要を説明します。

項目は次のとおりです。

- [Oracle Application Server ProcessConnect のコンポーネントの概要](#)
- [インストールのシナリオ](#)
- [インストール作業の概要](#)

## Oracle Application Server ProcessConnect のコンポーネントの概要

Oracle Application Server ProcessConnect は、同じ企業の内部での統合および複数の企業間での統合を設計、デプロイ、管理するための総合的なソリューションです。

Oracle Application Server ProcessConnect のコンポーネントは、次の場所にインストールされます。

- Oracle Application Server 中間層

Oracle Application Server ProcessConnect のインストールを実行すると、クラス・ライブラリ、ユーザー・インタフェース・ツール、テクノロジ・アダプタ、そして（オプションにより）アプリケーション・アダプタがインストールされます。また、インストール・タイプとして「J2EE and Web Cache」を選択し、Oracle Application Server 10g リリース 9.0.4 を Oracle Application Server の中間層にインストールして、Oracle Application Server ProcessConnect とともに使用する必要があります。インストール・タイプとして「J2EE and Web Cache」を選択すると、Java 2 Enterprise Edition (J2EE) アプリケーションを開発 / デプロイできるようにする機能と、Oracle Application Server Web Cache を通じて Web サイトを高速化する機能を持つ Web サーバーがインストールされます。

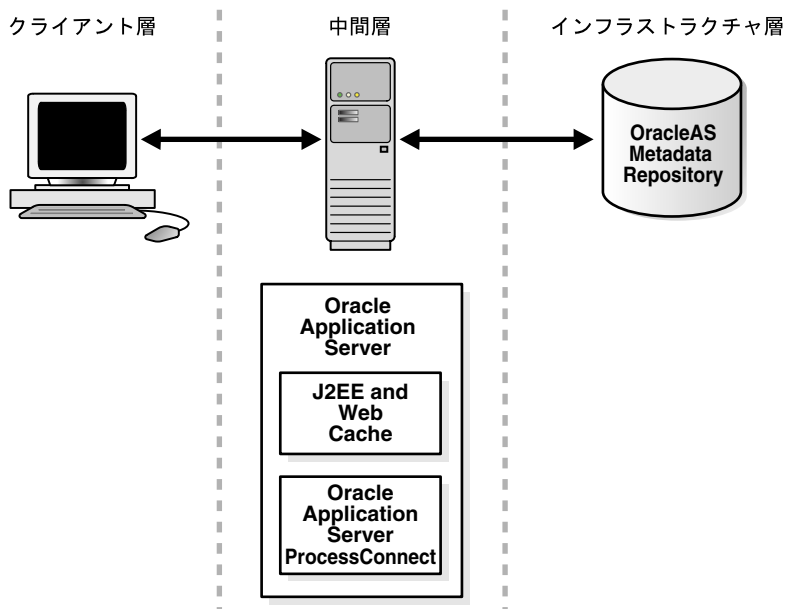
- Oracle Application Server Metadata Repository

Oracle Application Server ProcessConnect のデータベース・スキーマとシード・データは、OracleAS Infrastructure 10g の Oracle Application Server Metadata Repository に保存されます。

**関連情報：** Oracle Application Server ProcessConnect の詳細は、Oracle Application Server 10g ドキュメント・ライブラリの『Oracle Application Server ProcessConnect ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

図 1-1 は、Oracle Application Server ProcessConnect と Oracle Application Server Metadata Repository (OracleAS Metadata Repository と表記) です。

図 1-1 Oracle Application Server ProcessConnect と Oracle Application Server Metadata Repository



**注意：** 図 1-1 に示すように、中間層とインフラストラクチャ層を別々のホストにインストールすることを強くお勧めします。こうすると、パフォーマンスが向上します。すべての Oracle コンポーネントを同じホスト上で実行することも可能ですが、あまりお勧めできません。

## インストールのシナリオ

Oracle Application Server ProcessConnect は、OracleAS Infrastructure 10g または Oracle9i Enterprise Edition で動作する Oracle Application Server Metadata Repository を使用して構成できます。次の項では、これら 2 つのシナリオにおけるインストールの概要を説明します。

- シナリオ 1: Oracle Application Server ProcessConnect の OracleAS Infrastructure 10g との構成
- シナリオ 2: Oracle Application Server ProcessConnect の Oracle9i Enterprise Edition との構成

---

---

**注意：** 現行リリースの Oracle Application Server Metadata Repository には、Oracle Application Server ProcessConnect スキーマが含まれています。Oracle9iAS Infrastructure リリース 9.0.2 または 9.0.3 を使用している場合は、現行リリースの Oracle Application Server Metadata Repository にアップグレードしてください。

---

---

**関連情報：** アップグレード手順は、『Oracle Application Server 10g アップグレード』を参照してください。

### シナリオ 1: Oracle Application Server ProcessConnect の OracleAS Infrastructure 10g との構成

OracleAS Infrastructure 10g は、Oracle Application Server Metadata Repository、Single Sign-On サーバー、Oracle Internet Directory、Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) から構成されています。現行リリースの Oracle Application Server Metadata Repository には、Oracle Application Server ProcessConnect スキーマが含まれています。デフォルトでは、Oracle Application Server Metadata Repository は Oracle Internet Directory に登録されます。インストールの実行中に「Identity Management Access」構成オプションを選択すると、この Oracle Application Server Metadata Repository と Oracle Application Server ProcessConnect を関連付けることができます。

### シナリオ 2: Oracle Application Server ProcessConnect の Oracle9i Enterprise Edition との構成

Oracle Application Server Repository Creation Assistant (RepCA) ツールを実行すると、Oracle Application Server Metadata Repository として使用する Oracle9i Enterprise Edition を構成できます。Oracle Application Server Metadata Repository には、Oracle Application Server ProcessConnect スキーマが含まれています。デフォルトでは、Oracle Application Server Metadata Repository は Oracle Internet Directory に登録されます。インストールの実行中に「Identity Management Access」構成オプションを選択すると、この Oracle Application Server Metadata Repository と Oracle Application Server ProcessConnect を関連付けることができます。

**関連情報：** Oracle Application Server Repository Creation Assistant の詳細は、『Oracle Application Server 10g インストレーション・ガイド』を参照してください。

## インストール作業の概要

Oracle Application Server Metadata Repository のタイプに応じて実行するインストール作業の概要と、それらの作業を実行するときに参照するマニュアルおよび章を表 1-1 に示します。

表 1-1 インストール作業の概要

使用する コンポーネント	作業の概要	関連情報
OracleAS Infrastructure 10g	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現行リリースの Oracle Application Server Metadata Repository が収録された OracleAS Infrastructure 10g をインストールします。または、同コンポーネントにアップグレードします。</li> <li>2. インストール・タイプとして「J2EE and Web Cache」を選択し、現行リリースの Oracle Application Server を Oracle Application Server の中間層にインストールします。</li> <li>3. J2EE and Web Cache と同じ Oracle ホームの Oracle Application Server 中間層に Oracle Application Server ProcessConnect をインストールします。インストール作業のステップ 4 (3-6 ページを参照) で「Identity Management Access」オプションを選択すると、Oracle Internet Directory に登録された Oracle Application Server Metadata Repository と Oracle Application Server ProcessConnect を関連付けることができます。</li> </ol>	<p>『Oracle Application Server 10g インストール・ガイド』</p> <p>『Oracle Application Server 10g アップグレード』</p> <p>『Oracle Application Server 10g インストール・ガイド』</p> <p>本書の第 3 章「インストール手順」</p>
Oracle9i Enterprise Edition	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Oracle9i Enterprise Edition をインストールします。</li> <li>2. Oracle Application Server Repository Creation Assistant を使用して、Oracle9i Enterprise Edition 内に現行リリースの Oracle Application Server Metadata Repository を作成します。</li> <li>3. インストール・タイプとして「J2EE and Web Cache」を選択し、現行リリースの Oracle Application Server を Oracle Application Server の中間層にインストールします。</li> <li>4. J2EE and Web Cache と同じ Oracle ホームの Oracle Application Server 中間層に Oracle Application Server ProcessConnect をインストールします。インストール作業のステップ 4 (3-6 ページを参照) で「Identity Management Access」オプションを選択すると、Oracle Internet Directory に登録された Oracle Application Server Metadata Repository と Oracle Application Server ProcessConnect を関連付けることができます。</li> </ol>	<p>Oracle9i のインストール・ガイド</p> <p>『Oracle Application Server 10g インストール・ガイド』</p> <p>『Oracle Application Server 10g インストール・ガイド』</p> <p>本書の第 3 章「インストール手順」</p>





---

## インストールの必要条件

この章では、Oracle Application Server ProcessConnect をインストールするための必要条件を説明します。

項目は次のとおりです。

- [インストール前の準備作業](#)
- [必要条件の概要](#)

## インストール前の準備作業

Oracle Application Server ProcessConnect をインストールする前に、次の準備作業を実行する必要があります。

- ステップ 1: 現行リリースの [Oracle Application Server Metadata Repository](#) のインストール、または現行リリースへのアップグレード
- ステップ 2: 「J2EE and Web Cache」インストール・タイプの [Oracle Application Server](#) のインストール
- ステップ 3: ユーザー名とパスワードの取得
- ステップ 4: [Oracle Enterprise Manager Application Server Control](#) の停止

### ステップ 1: 現行リリースの Oracle Application Server Metadata Repository のインストール、または現行リリースへのアップグレード

次のいずれかの手順を実行して、現行リリースの Oracle Application Server Metadata Repository をインストールするか、現行リリースにアップグレードします。現行リリースのメタデータ・リポジトリには、Oracle Application Server ProcessConnect スキーマが含まれています。

- Oracle Application Server ソフトウェア CD-ROM から OracleAS Infrastructure 10g リリース 9.0.4 (Oracle Application Server Metadata Repository を含む) をインストールします。
- Oracle Application Server Repository Creation Assistant を実行して、Oracle9i Enterprise Edition データベースから現行リリースの Oracle Application Server Metadata Repository を作成します。
- Upgrade Assistant を実行して、Oracle9iAS Metadata Repository リリース 9.0.2 または 9.0.3 を現行リリースにアップグレードします。

#### 関連情報：

- 現行リリースの Oracle Application Server Metadata Repository をインストールする手順、Oracle Application Server Repository Creation Assistant を実行する手順は、『Oracle Application Server 10g インストレーション・ガイド』を参照してください。
- 現行リリースの Oracle Application Server Metadata Repository にアップグレードする手順は、『Oracle Application Server 10g アップグレード』を参照してください。

## ステップ 2: 「J2EE and Web Cache」インストール・タイプの Oracle Application Server のインストール

1-3 ページの図 1-1 に示したように、「J2EE and Web Cache」インストール・タイプの Oracle Application Server 10g リリース 9.0.4 を独立した中間層ホスト（Oracle Application Server Metadata Repository がインストールされたホストとは異なるホスト）にインストールすることをお勧めします。これにより、パフォーマンスが最適化されます。10g リリース 9.0.4 より古いリリースの J2EE and Web Cache は使用できません。

**関連情報：** J2EE and Web Cache をインストールする手順は、『Oracle Application Server 10g インストレーション・ガイド』を参照してください。

## ステップ 3: ユーザー名とパスワードの取得

Oracle Application Server Metadata Repository または J2EE and Web Cache のインストール時に入力した次の情報（ユーザー名、パスワード）を確認または変更します。Oracle Application Server ProcessConnect のインストール中に、これらの情報の入力を求められる場合があります。

- Oracle Internet Directory 管理者のユーザー名とパスワード（Oracle Application Server Metadata Repository のインストール時に入力したもの）。Oracle Internet Directory に登録された Oracle Application Server Metadata Repository と Oracle Application Server ProcessConnect を関連付ける場合は、この情報が必要になります。
- Oracle Application Server ProcessConnect スキーマと Oracle Workflow スキーマのパスワード。Oracle Internet Directory に登録された Oracle Application Server Metadata Repository を使用して Oracle Application Server ProcessConnect を構成する場合は、これらのパスワードが必要になります。これらのパスワードを取得する方法は、次の表に示す条件に応じて異なります。

条件	取得方法
<ul style="list-style-type: none"><li>■ OracleAS Infrastructure 10g に収録された Oracle Application Server Metadata Repository をインストールしたが、Oracle Internet Directory に登録しなかった場合</li><li>■ Oracle Application Server Repository Creation Assistant を実行して Oracle9i Enterprise Edition データベースを現行リリースの Oracle Application Server Metadata Repository にアップグレードしたが、Oracle Internet Directory をインストールしなかった場合</li></ul>	<p>パスワードは自動的にロックされているため、パスワードを変更する必要があります。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. SQL*Plus を起動します。 <code>sqlplus /NOLOG</code></li><li>2. Oracle Application Server Metadata Repository に接続します。 <code>CONNECT / AS SYSDBA</code></li><li>3. 次のデフォルト・パスワードを使用して、Oracle Application Server ProcessConnect と Oracle Workflow のアカウントのロックを解除します。 <code>ALTER USER ip IDENTIFIED BY ip ACCOUNT UNLOCK;</code> <code>ALTER USER owf_mgr IDENTIFIED BY owf_mgr ACCOUNT UNLOCK;</code></li></ol> <p><b>注意：</b>セキュリティ保護の理由から、次の例に示すように、これら 2 つのアカウントのパスワードを変更することをお勧めします。 <code>ALTER USER ip IDENTIFIED BY new_ip_passwd;</code> 詳細は、『Oracle Application Server 10g 管理者ガイド』を参照してください。</p>
すでに Oracle Internet Directory に登録された Oracle Application Server Metadata Repository を使用しているが、インストール作業中は Oracle Internet Directory を使用して Oracle Application Server ProcessConnect を構成しない場合	<code>ldapsearch</code> コマンドライン・ツールを使用し、ランダムに生成されるパスワードを取得します (詳細は『Oracle Application Server 10g 管理者ガイド』を参照)。
<ul style="list-style-type: none"><li>■ Oracle Application Server 管理者のパスワード (J2EE and Web Cache のインストール時に入力したもの)。Oracle Application Server ProcessConnect ユーザー・インタフェース・ツール と Oracle Enterprise Manager Application Server Control にアクセスするときにも、このパスワードが使用されます。</li></ul>	

## ステップ 4: Oracle Enterprise Manager Application Server Control の停止

Oracle Application Server ProcessConnect をインストールする前に、Oracle Enterprise Manager Application Server Control を停止する必要があります。

1. コマンド・プロンプトで次のディレクトリに移動します。

```
$ORACLE_HOME/bin
```

2. 次のコマンドを入力します。

```
emctl stop iasconsole
```

## 必要条件の概要

この項では、Oracle Application Server ProcessConnect がインストールされるホストに関する必要条件を説明します。

- システムの要件
- 移行に関する制限
- RosettaNet パートナ・インタフェース・プロセスのサポート
- アプリケーション・アダプタの要件
- Oracle Workflow の要件
- グローバリゼーションの要件

## システムの要件

表 2-1 に、Oracle Application Server ProcessConnect のシステムの要件を示します。

---

---

**注意：** Oracle Application Server ProcessConnect および「J2EE and Web Cache」インストール・タイプは、同じホスト上の同じ Oracle ホームにインストールする必要があります。これら 2 つのコンポーネントをインストールするのに十分なメモリーとディスク領域がホストに備わっていることを確認してください。

---

---

表 2-1 システムの要件

コンポーネント	要件
メモリー	512MB - 「J2EE and Web Cache」 インストール・タイプに必要な 512MB には、Oracle Application Server ProcessConnect に必要なメモリーも含まれています。
ディスク領域	41MB
オペレーティング・システム	Sun SPARC Solaris バージョン 8 または 9  <b>関連情報：</b> オペレーティング・システムに必要なパッチやパッケージおよびカーネル・パラメータの設定については、『Oracle Application Server 10g インストール・ガイド』を参照してください。
Web ブラウザ (Oracle Application Server ProcessConnect ユーザー・インタフェース・ツールを使用するために必要)	<ul style="list-style-type: none"><li>■ Microsoft Internet Explorer バージョン 5.5 以上</li><li>■ Netscape 4.78 以上</li></ul> <p>Web ブラウザでクッキーを必ず有効にしてください。Oracle Application Server ProcessConnect のキャッシュ・メカニズムでは、クッキーを使用してユーザー・セッションを識別します。</p> <p><b>注意：</b></p> <p>「標準」インストール・オプションを選択して、Web ブラウザをインストールしてください。「カスタム」オプションでインストールされた Web ブラウザでは、カレンダーやデータ型選択のポップアップ・ウィンドウを表示するときに問題が発生する可能性があります。</p> <p>Oracle Application Server ProcessConnect ユーザー・インタフェース・ツールでは Netscape 4.78 および 4.79 を使用できますが、テキスト・フィールドに非 ASCII 文字を入力しにくい場合があります。この問題を避けるために、Netscape 7.0 または Internet Explorer 5.5 にブラウザをアップグレードすることをお勧めします。</p>
Oracle Application Server Metadata Repository	<p>現行リリースの Oracle Application Server Metadata Repository (Oracle Application Server ProcessConnect スキーマを含むもの) を使用してください。</p> <p><b>関連情報：</b> 現行リリースの Oracle Application Server Metadata Repository のインストール手順、または現行リリースへのアップグレード手順は、2-2 ページの「<a href="#">ステップ 1: 現行リリースの Oracle Application Server Metadata Repository のインストール、または現行リリースへのアップグレード</a>」を参照してください。</p>

## 移行に関する制限

旧リリースの Oracle9iAS InterConnect または現行リリースの Oracle Application Server InterConnect を、現行リリースの Oracle Application Server ProcessConnect には移行できません。Oracle Application Server ProcessConnect と、Oracle9iAS InterConnect、Oracle Application Server InterConnect は、まったく別のコンポーネントです。

## RosettaNet パートナ・インタフェース・プロセスのサポート

Oracle Application Server ProcessConnect では、複数の RosettaNet パートナ・インタフェース・プロセス (PIP) がサポートされます。

### 関連情報：

- Oracle Application Server ProcessConnect における RosettaNet のサポートの詳細は、Oracle Application Server 10g ドキュメント・ライブラリの『Oracle Application Server ProcessConnect ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
- 『Oracle Application Server ProcessConnect ユーザーズ・ガイド』に記載されたサポート対象の RosettaNet PIP をダウンロードする手順は、Oracle Technology Network Japan (OTN-J) を参照してください。

## アプリケーション・アダプタの要件

Oracle Application Server ProcessConnect には、Oracle Application Server ProcessConnect ソフトウェア CD-ROM からインストールできるアプリケーション・アダプタ（例：Oracle Application Server Integration Adapter for PeopleSoft 8、Oracle Application Server Integration Adapter for SAP R/3）が含まれています。Oracle9iAS InterConnect と Oracle Application Server InterConnect では、これらのアプリケーション・アダプタを使用できません。同様に、Oracle9iAS InterConnect または Oracle Application Server InterConnect で提供されるアプリケーション・アダプタは、Oracle Application Server ProcessConnect では使用できません。

## Oracle Workflow の要件

この項では、Oracle Workflow の要件について説明します。

- [Oracle Workflow](#) で使用する追加言語のインストール
- [Oracle Workflow](#) と [Oracle E-Business Suite 11i](#) に関する注意事項
- [Oracle Application Server ProcessConnect](#) および [Oracle Application Server InterConnect](#) とともに [Oracle Workflow](#) を使用する場合

## Oracle Workflow で使用する追加言語のインストール

Oracle Application Server ProcessConnect を英語以外の言語環境にデプロイする場合は、追加の言語モジュールをインストールする必要があります。英語以外の言語環境では、**Oracle Workflow** で使用する追加言語もインストールする必要があります。この要件が満たされない場合は、構成のデプロイを行うときにエラーが発生します。次の手順を実行してください。

1. **SQL\*Plus** を起動して、**Oracle Workflow スキーマ・アカウント**に接続します。

```

sqlplus owf_mgr/password

```

2. `$ORACLE_HOME/wf/admin/sql` ディレクトリに移動します。

3. 次のスクリプトを実行して、特定の言語を有効にします。

```

@wfnlena.sql JA Y

```

JA は言語コード（この例では日本語）であり、Y はその言語を有効にする命令です。次の表に選択可能な言語を示します。

言語コード	言語	国または地域	コードセット
AR	アラビア語	アラブ首長国連邦	AR8ISO8859P6
BG	ブルガリア語	ブルガリア	CL8ISO8859P5
CA	カタロニア語	カタロニア	WE8ISO8859P1
CS	チェコ語	チェコ共和国	EE8ISO8859P2
D	ドイツ語	ドイツ	WE8ISO8859P1
DK	デンマーク語	デンマーク	WE8ISO8859P1
E	スペイン語	スペイン	WE8ISO8859P1
EG	エジプト語	エジプト	AR8ISO8859P6
EL	ギリシャ語	ギリシャ	EL8ISO8859P7
ESA	スペイン語（南米）	南米（スペイン語圏諸国）	WE8ISO8859P1
F	フランス語	フランス	WE8ISO8859P1
FRC	フランス語（カナダ）	カナダ	WE8ISO8859P1
GB	英語	イギリス	WE8ISO8859P1
HR	クロアチア語	クロアチア	EE8ISO8859P2
HU	ハンガリー語	ハンガリー	EE8ISO8859P2
I	イタリア語	イタリア	WE8ISO8859P1



言語コード	言語	国または地域	コードセット
IS	アイスランド語	アイスランド	WE8ISO8859P1
IW	ヘブライ語	イスラエル	IW8ISO8859P8
JA	日本語	日本	JA16EUC
KO	韓国語	韓国	KO16KSC5601
LT	リトアニア語	リトアニア	NEE8ISO8859P4
N	ノルウェー語	ノルウェー	WE8ISO8859P1
NL	オランダ語	オランダ	WE8ISO8859P1
PL	ポーランド語	ポーランド	EE8ISO8859P2
PT	ポルトガル語	ポルトガル	WE8ISO8859P1
PTB	ブラジル語	ブラジル	WE8ISO8859P1
RO	ルーマニア語	ルーマニア	EE8ISO8859P2
RU	ロシア語	CIS	CL8ISO8859P5
S	スウェーデン語	スウェーデン	WE8ISO8859P1
SF	フィンランド語	フィンランド	WE8ISO8859P1
SK	スロバキア語	スロバキア	EE8ISO8859P2
SL	スロベニア語	スロベニア	EE8ISO8859P2
TH	タイ語	タイ	TH8TISASCII
TR	トルコ語	トルコ	WE8ISO8859P9
US	米語	アメリカ	US7ASCII
ZHS	簡体字中国語	中国	ZHS16CGB231280
ZHT	繁体字中国語	台湾	ZHT16BIG5

4. 次のスクリプトを実行し、有効にした言語に対応する行を個々の Oracle Workflow オブジェクト変換テーブルに追加します。

```
@WFNLADD.sql
```

**関連情報：** wfnlenna.sql と WFNLADD.sql の詳細は、Oracle Application Server 10g ドキュメント・ライブラリの『Oracle Workflow 管理者ガイド』を参照してください。

## Oracle Workflow と Oracle E-Business Suite 11i に関する注意事項

Oracle Workflow は、Oracle E-Business Suite 11i と Oracle Application Server ProcessConnect の両方に含まれています。これら 2 つの Oracle Workflow は、参照するスキーマ・オブジェクトが若干異なり、同じデータベース内に共存可能かどうかを確認されていません。オラクル社では、Oracle Application Server 10g リリース 9.0.4 と Oracle E-Business Suite 11i の互換性テストを計画しています。

Oracle Application Server に付属の Oracle Workflow またはその従属コンポーネント (Oracle Application Server ProcessConnect など) を使用する場合は、既存の Oracle E-Business Suite 11i インスタンスに Oracle Workflow を上書きインストールしないでください。

## Oracle Application Server ProcessConnect および Oracle Application Server InterConnect とともに Oracle Workflow を使用する場合

Oracle Application Server ProcessConnect と Oracle Application Server InterConnect の両方を使用しているときに、Oracle Application Server InterConnect を Oracle Workflow に組み込む場合は、Oracle Application Server ProcessConnect のホームから Oracle Workflow をインストールできます。

**関連情報：** Oracle Application Server ProcessConnect のホームから Oracle Workflow をインストールする手順は、Oracle Application Server 10g ドキュメント・ライブラリの『Oracle Application Server InterConnect ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

## グローバル化の要件

Oracle Application Server ProcessConnect のグローバル化については、次の制限や注意事項を考慮してください。

- Oracle Application Server ProcessConnect でグローバル化がサポートされるのは、Oracle Application Server Metadata Repository のデータベースがリリース 9.2.0.4 以上で、キャラクタ・セットとして UTF8 が使用されている場合に限られます。OracleAS Infrastructure 10g に収録されているデフォルトの Oracle Application Server Metadata Repository では、リリース 9.0.1.5 のデータベースが使用されています。そのリポジトリで使用する XMLType では、マルチバイト・キャラクタ (つまりグローバル化) がサポートされません。Oracle Application Server ProcessConnect でグローバル化がサポートされるようにするには、次の手順を実行する必要があります。

---

**注意：** インストール時に次の手順を実行しないと、以降はグローバル化のサポートを Oracle Application Server ProcessConnect に追加できません。

---

- Oracle9i Enterprise Edition リリース 9.2.0.4 以上をインストールし、データベースのキャラクタ・セットとして UTF8 を選択します。
- Oracle Application Server Repository Creation Assistant を使用して、Oracle9i Enterprise Edition 内に Oracle Application Server Metadata Repository を作成します。
- シード・データは英語のみで提供されます（たとえば、コア・データ型は英語のみで使えます）。
- Oracle Application Server ProcessConnect は、ユーザーが選択した適切な言語でインストールする必要があります。たとえば、Oracle Application Server ProcessConnect を英語でインストールした場合は、Web ブラウザや中間層の言語がフランス語であっても、ユーザーがモデリング・メタデータやプロファイル・データの作成に使用するユーザー・インタフェース・ツールでは英語のみがサポートされます。ユーザー・インタフェース・ツールの画面を適切な言語で表示するために、次の言語が同じになるように十分注意してください。
  - インストール作業で使用する言語
  - Oracle Application Server の中間層の言語
  - ブラウザの言語
- 現行リリースでは、Oracle Application Server ProcessConnect ユーザー・インタフェース・ツールおよびシステム管理ツール（Oracle Enterprise Manager）で使用可能なオンライン・ヘルプは英語のみで提供されています。
- 現行リリースでは、キャラクタ・セットとして AL32UTF8 はサポートされません。
- UTF8 キャラクタ・セットでは補足文字がサポートされません。AL32UTF8 では補足文字がサポートされますが、XMLType では 9.x データベース上でのキャラクタ・セット変換がサポートされません。JDBC ドライバでは UTF8 キャラクタ・セットを使用して、テキスト・データが転送されます。また、JDBC ドライバでは AL32UTF8 がサポートされ、UTF8 を使用して、Oracle Application Server Metadata Repository とのデータ交換が行われます。一方、XMLType では、UTF8 と AL32UTF8 間の変換がサポートされません。このような条件下では、UTF8 キャラクタ・セットを使用することが唯一の有効な選択肢です。

**関連情報：** Oracle Application Server 10g ドキュメント・ライブラリの『Oracle Application Server ProcessConnect ユーザーズ・ガイド』



---

## インストール手順

この章では、Oracle Application Server ProcessConnect の各コンポーネントをインストールする方法について説明します。

項目は次のとおりです。

- [インストール作業](#)
- [インストール後の構成作業](#)
- [インストール後の確認作業](#)
- [ディレクトリ構造](#)
- [削除作業](#)
- [サイレント・インストール（非対話式）](#)
- [インストールと構成に関するトラブルシューティング](#)

---

**注意：** Oracle Application Server ProcessConnect のインストール媒体として、CD-ROM の他に DVD も用意されています。DVD の場合は、Oracle Application Server ProcessConnect のインストール・ファイルが processconnect ディレクトリにあります。DVD を使用したインストールの詳細は、『Oracle Application Server 10g インストレーション・ガイド』を参照してください。

---

## インストール作業

Oracle Application Server ProcessConnect のインストール作業、および任意選択により Oracle Application Server Integration アプリケーション・アダプタのインストール作業を行うには、次の手順を実行します。

---

**注意：** 同じ Oracle ホームに対する Oracle Application Server ProcessConnect のインストール作業は、1 回限りにしてください。Oracle Application Server ProcessConnect のインストール作業は同じホスト上で複数回実行できますが、個々のインストール作業を別々の Oracle ホームに対して実行する必要があります。

---

1. [第 2 章「インストールの必要条件」](#) で説明したインストール前の準備作業がすべて完了し、必要条件がもれなく満たされていることを確認します。
2. 「J2EE and Web Cache」インストール・タイプの Oracle Application Server がすでにインストールされている中間層ホストにログインします。
3. Oracle Application Server ProcessConnect CD-ROM を取り出します。
4. 次の操作の詳細は、『Oracle Application Server 10g インストレーション・ガイド』を参照してください。
  - CD-ROM のマウント・ポイントの設定
  - Oracle Universal Installer の起動
5. Oracle Application Server ProcessConnect CD-ROM の Disk1 ディレクトリに移動します。
6. Oracle Universal Installer を起動します。

```
prompt> ./runInstaller
```

「ようこそ」画面が表示されます。
7. 「次へ」をクリックします。

現在のホストがクラスタに属していることが検出された場合は、「ハードウェアのクラスタ・インストール・モードの指定」画面が表示されます。ステップ 8～9 を実行します。現在のホストがクラスタに属していることが検出されなかった場合は、「ファイルの場所の指定」画面が表示されます。ステップ 10 に進みます。

8. 次の情報を入力します。

フィールド	説明
クラスタ・インストール	Oracle Application Server ProcessConnect をインストールするときは、このオプションを選択しないでください。このオプションは、OracleAS Infrastructure 10g のインストールのみに適用されます。
非クラスタ・インストール	必ずこのオプションを選択してください。そうすると、Oracle Application Server ProcessConnect がクラスタ・ノードの一部としてではなく、現在のノードのみにインストールされます。

9. 「次へ」をクリックします。

「ファイルの場所の指定」画面が表示されます。「ソース」フィールド内のディレクトリ・パスを変更しないでください。これは、CD-ROM 内で Oracle Application Server ProcessConnect のインストール・ファイルが存在するディレクトリです。

10. Oracle コンポーネントをインストールする Oracle ホーム名とディレクトリ・パスを、「インストール先」フィールドに入力します。ディレクトリ・パスは、「J2EE and Web Cache」インストール・タイプのインストール先と同じパスにしてください。

11. 「次へ」をクリックします。

「インストールする製品の選択」画面が表示されます。

12. インストールする製品を選択します。

製品	説明
Oracle Application Server 10g ProcessConnect	<p>Oracle Application Server ProcessConnect と次のテクノロジー・アダプタをインストールします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ アドバンスド・キューイング・アダプタ</li> <li>■ 電子メール・アダプタ</li> <li>■ FTP アダプタ</li> <li>■ HTTP アダプタ</li> <li>■ JMS アダプタ</li> <li>■ Oracle データベース・アダプタ</li> <li>■ Web サービス・アダプタ</li> </ul> <p><b>注意:</b> テクノロジー・アダプタをインストールできるのは、インストール・オプションとして「Oracle Application Server 10g ProcessConnect」を選択した場合に限られます。</p> <p><b>関連情報:</b> テクノロジー・アダプタの詳細は、Oracle Application Server 10g ドキュメント・ライブラリの『Oracle Application Server ProcessConnect ユーザーズ・ガイド』を参照してください。</p>

製品	説明
Oracle Application Server アダプタ	<p>次のアプリケーション・アダプタから任意のアダプタを選択してインストールします。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ PeopleSoft 8 アダプタ</li><li>■ SAP R/3 アダプタ</li><li>■ Siebel 2000 アダプタ</li><li>■ J.D. Edwards OneWorld XE アダプタ</li><li>■ Virtual Storage Access Method (VSAM) アダプタ</li><li>■ Customer Information Control System (CICS) アダプタ</li><li>■ Information Management System - Transaction Management (IMS/TM) アダプタ</li><li>■ Information Management System - Database (IMS/DB) アダプタ</li><li>■ Tuxedo アダプタ</li></ul> <p><b>注意：</b>これらのアプリケーション・アダプタをインストールするのと同じ Oracle ホームに、Oracle Application Server ProcessConnect を事前にインストールしておく必要があります。Oracle Application Server ProcessConnect がインストールされていない状態でインストールを続けようとする、エラー・メッセージが表示されます。</p> <p><b>関連情報：</b>アプリケーション・アダプタの詳細は、この画面のオンライン・ヘルプ、および Oracle Application Server 10g ドキュメント・ライブラリ内にある各アプリケーション・アダプタのマニュアルを参照してください。</p>

13. 「次へ」をクリックします。
14. 選択したコンポーネントに応じて、次の項を参照します。

選択したコンポーネント	参照する項
Oracle Application Server 10g ProcessConnect	3-5 ページの「 <a href="#">Oracle Application Server ProcessConnect のインストール</a> 」
Oracle Application Server アダプタ	3-10 ページの「 <a href="#">Oracle Application Server Integration アダプタのインストール</a> 」



## Oracle Application Server ProcessConnect のインストール

1. 3-2 ページの「インストール作業」の順に従い、Oracle Application Server ProcessConnect をインストールする画面を表示します。

「使用可能な製品コンポーネント」画面が表示されます。

この画面は、Oracle Workflow のインストールに必要です。この画面上のオプションの選択を解除しないでください。

2. 「次へ」をクリックします。

「Oracle AS ProcessConnect のインストール手順のプレビュー」画面が表示されます。

3. 画面に表示された情報をよく読んで、このインストール・セッションで実行するインストールと構成のタイプを決定し、「次へ」をクリックします。

「コンポーネントの構成」画面に、次のコンポーネントが表示されます。これらのコンポーネントが構成対象となり、インストールの終了時に自動的に起動されます。

構成オプション	説明
Oracle AS Metadata Repository	Oracle Application Server のほとんどの中間層（Oracle Application Server ProcessConnect を含む）で必要とされる、スキーマとメタデータが保存されます。  Oracle Application Server Metadata Repository は構成対象として自動的に選択されており、選択を解除できません。
Identity Management Access	Oracle Internet Directory に登録された Oracle Application Server Metadata Repository を、現在インストール中の Oracle Application Server ProcessConnect インスタンスで使用するように関連付けます。この Oracle Application Server Metadata Repository には、Oracle Application Server ProcessConnect で必要とされるスキーマとメタデータが保存されます。  <b>注意：</b> <ul style="list-style-type: none"><li>■ J2EE and Web Cache のインストール・セッションで Identity Management Access がすでに構成されている場合は、このオプションは淡色表示となり選択解除できません。</li><li>■ J2EE and Web Cache のインストール・セッションで Identity Management Access をインストールしなかった場合は、このオプションを選択できます。</li></ul>

**関連情報：** Oracle Application Server Metadata Repository と Identity Management Access の詳細は、Oracle Application Server 10g ドキュメント・ライブラリの『Oracle Application Server 10g 概要』を参照してください。

4. Identity Management Access を使用するかどうかを選択し、「次へ」をクリックします。

選択内容	次に実行する作業	その次に進むステップ
「Identity Management Access」を選択しない場合	現在インストール中の Oracle Application Server ProcessConnect インスタンスで使用する Oracle Application Server Metadata Repository (Oracle Internet Directory に登録されていないもの) を選択します。	ステップ 5
「Identity Management Access」を選択する場合	Oracle Internet Directory に登録された Oracle Application Server Metadata Repository を、現在インストール中の Oracle Application Server ProcessConnect インスタンスで使用するように関連付けます。	ステップ 9
J2EE and Web Cache のインストール時に「Identity Management Access」を選択していた場合	チェックボックスは淡色表示になっています。現在インストール中の Oracle Application Server ProcessConnect インスタンスで使用する Oracle Internet Directory のログイン情報を指定します。	ステップ 11

**関連情報：** Identity Management Access をインストール時に構成せず  
に、インストールが完了した後で構成する方法の詳細は、『Oracle  
Application Server 10g インストレーション・ガイド』を参照してくださ  
い。

5. ProcessConnect 用の Metadata Repository の指定画面に次の情報を入力します。すべてのフィールドに情報を入力する必要があります。

フィールド	説明
ProcessConnect スキーマ (ip) 用のパスワード	Oracle Application Server ProcessConnect スキーマ用のパスワードを入力します。 <b>関連情報：</b> ip パスワードの取得方法は、2-3 ページの「 <a href="#">ステップ 3: ユーザー名とパスワードの取得</a> 」を参照してください。
Workflow スキーマ (owf_mgr) 用のパスワード	Oracle Workflow スキーマ用のパスワードを入力します。 <b>関連情報：</b> owf_mgr パスワードの取得方法は、2-3 ページの「 <a href="#">ステップ 3: ユーザー名とパスワードの取得</a> 」を参照してください。

フィールド	説明
ホスト名とポート	<p>Oracle Application Server Metadata Repository データベースがインストールされている、ホストの名前とポート番号を次の形式で入力します。</p> <p><i>hostname:port</i></p> <p>Oracle Real Application Clusters の場合、次の形式を使用します。</p> <p><i>hostname:port,hostname:port</i></p>
サービス名	Oracle Application Server Metadata Repository のサービス名を入力します。

**関連情報：** Oracle Workflow スキーマおよび Oracle Application Server ProcessConnect スキーマ用のパスワードを変更する方法は、Oracle Application Server 10g ドキュメント・ライブラリの『Oracle Application Server 10g 管理者ガイド』を参照してください。

6. 「次へ」をクリックします。
7. 選択した Oracle Application Server Metadata Repository で Oracle Application Server ProcessConnect のグローバリゼーションがサポートされていない場合は、その旨を知らせるメッセージが画面に表示されます。次のどちらかを選択してください。
  - グローバリゼーションのサポートが不要な場合は、「続行」をクリックします。
  - Oracle Application Server ProcessConnect のグローバリゼーションがサポートされる別の Oracle Application Server Metadata Repository を選択する場合は、「再試行」をクリックします。
8. ステップ 16 の「ias\_admin パスワードの指定」画面に進みます。
9. 「Oracle Internet Directory への登録」画面に次の情報を入力して、Oracle Application Server の中間層を Oracle Internet Directory に登録します。

フィールド	説明
ホスト名	Oracle Internet Directory がインストールされているホストの名前を入力します。
Port	ホストのポート番号を入力します。
Oracle Internet Directory には SSL 接続のみ使用	中間層から Oracle Internet Directory に対するすべての接続で Secure Sockets Layer (SSL) を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。

10. 「次へ」をクリックします。1 つのレルムしか持たない Oracle Internet Directory を指定した場合は、「Oracle Internet Directory に対するログインの指定」画面が表示されます。
11. 「Oracle Internet Directory に対するログインの指定」画面に次の情報を入力します。

フィールド	説明
ユーザー名	iASAdmins グループに属するユーザー名を入力します。入力したユーザー名は、Oracle Internet Directory のレルムに対して認証されます。
パスワード	ユーザー名のパスワードを入力します。

**関連情報：** レルムについては、Oracle Application Server 10g ドキュメント・ライブラリの『Oracle Internet Directory 管理者ガイド』を参照してください。

12. 「次へ」をクリックします。
- 「Metadata Repository の選択」画面が表示されます。
13. Oracle Application Server 中間層で使用する Oracle Application Server Metadata Repository を選択します。Oracle Internet Directory に登録された Oracle Application Server Metadata Repository のみが表示されます。
- ここで選択する Oracle Application Server Metadata Repository 内には、Oracle Application Server ProcessConnect スキーマが存在する必要があります。次のいずれかの操作を実行すると、リポジトリ内で Oracle Application Server ProcessConnect スキーマが使用可能になります。
- 現行リリースの Oracle Application Server Metadata Repository をインストールした場合
  - Oracle Application Server Repository Creation Assistant を実行して、Oracle9i Enterprise Edition 内に現行リリースの Oracle Application Server Metadata Repository を作成した場合
  - Upgrade Assistant を実行して、Oracle9iAS Metadata Repository リリース 9.0.2 または 9.0.3 を現行リリースの Oracle Application Server Metadata Repository にアップグレードした場合
14. 「次へ」をクリックします。
15. 選択した Oracle Application Server Metadata Repository で Oracle Application Server ProcessConnect のグローバリゼーションがサポートされていない場合は、その旨を知らせるメッセージが画面に表示されます。次のどちらかを選択してください。
- グローバリゼーションのサポートが不要な場合は、「続行」をクリックします。

- Oracle Application Server ProcessConnect のグローバリゼーションがサポートされる別の Oracle Application Server Metadata Repository を選択する場合は、「再試行」をクリックします。

「ias\_admin パスワードの指定」画面が表示されます。

16. Oracle Application Server ProcessConnect のパスワードを入力します。これは、J2EE and Web Cache のインストール時に入力したパスワードです。このパスワードは、次のツールにログインするときに使用します。

- Oracle Application Server ProcessConnect ユーザー・インタフェース・ツール (ユーザー名として admin を使用)
- Oracle Enterprise Manager Application Server Control (ユーザー名として ias\_admin を使用)

**関連情報：** ias\_admin パスワードを忘れた場合のパスワードのリセット方法は、Oracle Application Server 10g ドキュメント・ライブラリの『Oracle Application Server 10g 管理者ガイド』を参照してください。

17. 「次へ」をクリックします。

「サマリー」画面が表示されます。

18. 詳細情報 (必要なディスク容量など) を確認します。十分なディスク領域があるかどうかをチェックしてください。

19. 「インストール」をクリックして、コンポーネントをインストールします。Oracle Workflow は、Oracle Application Server ProcessConnect とともに自動的にインストールされます。

インストールが完了すると、次に示すインストール後の構成ツールが起動され、Oracle Application Server ProcessConnect が自動的に構成されます。

ツール	説明
ProcessConnect Configuration Assistant	Oracle Application Server ProcessConnect スキーマを構成します。
ProcessConnect J2EE アプリケーション・デプロイメント	Java 2 Enterprise Edition (J2EE) アプリケーションを開発 / デプロイできるように、Oracle Application Server ProcessConnect を構成します。
OPMN Configuration Assistant	Oracle Process Management Notification (OPMN) を登録します。
DCM プラグインを EM に登録	Distributed Configuration Management (DCM) プラグインを Oracle Enterprise Manager に登録します。

ツール	説明
Enterprise Manager Agent Configuration Assistant	Oracle Enterprise Manager Agent を登録します。
Enterprise Manager Web Site Configuration Assistant	Oracle Enterprise Manager Application Server Controlを登録します。

インストールと構成が正常に終了すると、「インストールの終了」画面が開き、インストールが成功したというメッセージが表示されます。インストールまたは構成が失敗した場合は、3-18 ページの「インストールと構成に関するトラブルシューティング」を参照してください。

20. 「次へ」をクリックします。

「インストールの終了」画面にインストール・セッションの詳細情報が表示されます。次のツールにログインする方法も表示されます。

- Oracle Application Server ProcessConnect ユーザー・インタフェース・ツール
- Oracle Enterprise Manager Application Server Control

21. 「終了」をクリックします。

関連情報：

- インストール後に実行する必要がある作業の手順は、3-12 ページの「インストール後の構成作業」を参照してください。
- Oracle Application Server ProcessConnect ユーザー・インタフェース・ツールおよび Oracle Enterprise Manager Application Server Control へのアクセス手順は、3-13 ページの「インストール後の確認作業」を参照してください。

## Oracle Application Server Integration アダプタのインストール

**注意：** Oracle Application Server ProcessConnect を事前にインストールしないでアダプタをインストールしようとすると、エラー・メッセージが表示され、インストールを続行できません。

- 3-2 ページの「インストール作業」の手順説明に従い、Oracle Application Server Integration アダプタをインストールする画面を表示します。  
「使用可能な製品コンポーネント」画面が表示されます。

2. インストールするアダプタを選択し、「インストール」をクリックします。  
「サマリー」画面が表示されます。
3. 詳細情報（必要なディスク容量など）を確認します。十分なディスク領域があるかどうかをチェックしてください。
4. 「インストール」をクリックして、アダプタをインストールします。  
インストールが完了すると、インストール後の構成ツールが起動され、選択したアダプタが自動的に構成されます。  
インストールと構成が正常に終了すると、「インストールの終了」画面が開き、インストールが成功したというメッセージが表示されます。
5. 次のアダプタをインストールした場合は、別のホスト上で追加のインストール作業を実行する必要があります。そのためのインストール・ソフトウェアは、キット内の別のアプリケーション・アダプタ CD-ROM に収録されています。インストール手順の詳細は、Oracle Application Server 10g ドキュメント・ライブラリ内の次のマニュアルを参照してください。

インストールした アダプタ	参照するマニュアル
VSAM アダプタ	『Oracle Application Server Integration Adapter for VSAM Installation and User's Guide』
CICS アダプタ	『Oracle Application Server Integration Adapter for CICS Installation and User's Guide』
IMS/TM アダプタ	『Oracle Application Server Integration Adapter for IMS/TM Installation and User's Guide』
IMS/DB アダプタ	『Oracle Application Server Integration Adapter for IMS/DB Installation and User's Guide』
Tuxedo アダプタ	『Oracle Application Server Integration Adapter for Tuxedo Installation and User's Guide』

## インストール後の構成作業

Oracle Application Server ProcessConnect のインストールが完了した後で、次の構成作業を実行する必要があります。

1. 2-3 ページの「[ステップ 3: ユーザー名とパスワードの取得](#)」を参照して、Oracle Application Server ProcessConnect と Oracle Workflow のスキーマのパスワードを取得する手順を確認します。これらのパスワードは、インストール後の構成作業を実行する際に必要です。Oracle Internet Directory に登録された Oracle Application Server Metadata Repository と Oracle Application Server ProcessConnect を関連付けたかどうかに関係なく、パスワードの情報を確認してください。

2. Oracle Application Server Metadata Repository がインストールされているホスト上で SQL\*Plus を起動します。

```
sqlplus /NOLOG
```

3. Oracle Application Server ProcessConnect スキーマのユーザー名とパスワードを使用して接続を確立します。

```
SQL> CONNECT ip/ip_passwd
```

4. 次のジョブを実行します。

```
SQL> EXECUTE ip_b2b_dbms_job;
```

5. Oracle Workflow スキーマのユーザー名とパスワードを使用して接続を確立します。

```
CONNECT owf_mgr/owf_mgr_passwd
```

6. 次のジョブを実行します。

```
EXECUTE ip_wf_listen_dbms_job;
```

Oracle Workflow ユーザー・インタフェース・ツールが構成済の場合は、それを使用してこのステップ 6 を実行できます。

7. SQL\*Plus を終了します。



## インストール後の確認作業

Oracle Application Server ProcessConnect がインストールされているホストから、Oracle Application Server ProcessConnect ユーザー・インタフェース・ツールと Oracle Enterprise Manager Application Server Control にアクセスできることを確認します。表 3-1 に、これら 2 つのコンポーネントにアクセスする方法を示します。

表 3-1 Oracle Application Server ProcessConnect のコンポーネントへのアクセス

コンポーネント	入力する URL	入力する ユーザー名	入力する パスワード	入力する組織名
Oracle Application Server ProcessConnect ユーザー・インタフェース・ツール	<code>http://hostname:port/integration</code>  <i>port</i> は、Oracle HTTP Server で使用されるポート番号です (7777 または 4443 を使用できます)。	<code>admin</code>	<code>ias_admin</code>	<code>organization</code>
Oracle Enterprise Manager Application Server Control	<code>http://hostname:port</code>  <i>port</i> は、Oracle Application Server ProcessConnect をインストールしたときに割り当てられたポート番号です。このポート番号はインストールの最後で画面に表示されます。	<code>ias_admin</code>	<code>ias_admin</code>	N/A

### 注意：

- `ias_admin` パスワードは、3-9 ページのステップ 16 で指定したものです。
- `organization` (組織名) は、企業や部門を一意に識別する手段になります。この `organization` (組織名) は、後で Oracle Application Server ProcessConnect ユーザー・インタフェース・ツールの「ホスト」タブで変更できます。

**関連情報：** Oracle Application Server ProcessConnect ユーザー・インタフェース・ツールおよび Oracle Enterprise Manager Application Server Control の詳細、組織名 `organization` を変更する方法は、Oracle Application Server 10g ドキュメント・ライブラリの『Oracle Application Server ProcessConnect ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

# ディレクトリ構造

Oracle Application Server ProcessConnect のホーム・ディレクトリに作成されるサブディレクトリを表 3-2 に示します。

表 3-2 ディレクトリ構造

ディレクトリ	説明
ip	ルート・ディレクトリ
ip/install	Oracle Application Server ProcessConnect 環境を設定するためのインストール・スクリプト
ip/import	様々なファイル（XSD ファイルなど）を保存するためのディレクトリ
ip/lib	クラス・ライブラリ用のディレクトリ
ip/log	デフォルト・ログ用のディレクトリ
ip/oem	Oracle Enterprise Manager のファイル
ip/config	構成ファイル
ip/admin	Oracle Application Server ProcessConnect のシード・ファイル
ip/doc	このインストール・ガイド - HTML（HyperText Markup Language）形式および PDF（Portable Document Format）形式

## 削除作業

注意：

- 現行リリースの Oracle Application Server ProcessConnect は、「J2EE and Web Cache」インストール・タイプと別々に削除または再インストールできません。そうしようとすると、Oracle Application Server ProcessConnect の再インストール時にエラーが発生します。したがって、「J2EE and Web Cache」インストール・タイプと Oracle Application Server ProcessConnect の両方を削除してから、2-2 ページの「インストール前の準備作業」で説明した順序に従って、これら 2 つのコンポーネントを再インストールしてください。
- Oracle Application Server ProcessConnect を削除して、再インストールをしない場合、J2EE and Web Cache を再インストールする必要はありません。

Oracle Application Server ProcessConnect またはアプリケーション・アダプタを削除する手順は、次のとおりです。

1. Oracle Universal Installer を起動します。
2. 「インストール済の製品」をクリックします。
3. 削除対象の製品が存在する Oracle ホームを展開します。
4. Oracle Application Server ProcessConnect または特定のアプリケーション・アダプタを、削除対象として選択します。
5. 「削除」をクリックします。

## サイレント・インストール（非対話式）

Oracle Application Server ProcessConnect CD-ROM の Disk 1 の stage/Response ディレクトリには、2 種類のレスポンス・ファイルが用意されています。レスポンス・ファイルは、3-6 ページのステップ 4 で選択する次のオプションに応じて異なります。

- [Oracle Application Server Metadata Repository](#)
- [Identity Management Access](#)

**関連情報：** レスポンス・ファイルの使用方法は、『Oracle Application Server 10g インストレーション・ガイド』を参照してください。

## Oracle Application Server Metadata Repository

「Oracle Application Server Metadata Repository」オプションを選択した場合は、`oracle.iappserver.proc.metadata.repos.option.rsp` というレスポンス・ファイルが使用されます。

```
# For Metadata Repository
RESPONSEFILE_VERSION=2.2.1.0.0
UNIX_GROUP_NAME="oinstall"
FROM_LOCATION="/mount_point/Disk1/stage/products.jar"
ORACLE_HOME="/local_location/IP_home"
ORACLE_HOME_NAME="IP_home"
SHOW_SPLASH_SCREEN=false
SHOW_WELCOME_PAGE=false
SHOW_INSTALL_PROGRESS_PAGE=false
SHOW_COMPONENT_LOCATIONS_PAGE=false
SHOW_CUSTOM_TREE_PAGE=false
SHOW_SUMMARY_PAGE=false
SHOW_REQUIRED_CONFIG_TOOL_PAGE=false
SHOW_OPTIONAL_CONFIG_TOOL_PAGE=false
SHOW_RELEASE_NOTES=false
SHOW_ROOTSH_CONFIRMATION=false
```

```
SHOW_END_SESSION_PAGE=false
SHOW_EXIT_CONFIRMATION=false
NEXT_SESSION=false
NEXT_SESSION_ON_FAIL=false
SHOW_DEINSTALL_CONFIRMATION=false
SHOW_DEINSTALL_PROGRESS=false
SHOW_IAS_COMPONENT_CONFIG_PAGE=false
ACCEPT_LICENSE_AGREEMENT=true
RESTART_SYSTEM=<Value Unspecified>
CLUSTER_NODES=<Value Unspecified>

PreReqConfigSelections=""
n_ValidationPreReqConfigSelections=0
TOPLEVEL_COMPONENT={"oracle.tip.intg","9.0.4.0.0"}
DEINSTALL_LIST={"oracle.tip.intg","9.0.4.0.0"}
s_startupProcess="OracleAS Metadata Repository"
sl_MdConnect = {ip,owf_mgr,isunrak20.us.oracle.com:1521,lrgui}
szl_OrgInfo={"ipdev"}
szl_InstanceInformation={core12345}
nValidationOID2=0
nValidationRepository=0
nValidationOrgInfo=0
nValidationMD=0
nValidationInstanceInfo=0
nValidationOID=0
bMaskValidationMD=false
```

## Identity Management Access

「Identity Management Access」 オプションを選択した場合は、`oracle.iappserver.proc.ident.manage.access.option.rsp` というレスポンス・ファイルが使用されます。

```
# For OID Repository
RESPONSEFILE_VERSION=2.2.1.0.0
UNIX_GROUP_NAME="oinstall"
FROM_LOCATION="/mount_point/Disk1/stage/products.jar"
ORACLE_HOME="/local_location/IP_home"
ORACLE_HOME_NAME="IP_home"
SHOW_SPLASH_SCREEN=false
SHOW_WELCOME_PAGE=false
SHOW_INSTALL_PROGRESS_PAGE=false
SHOW_COMPONENT_LOCATIONS_PAGE=false
SHOW_CUSTOM_TREE_PAGE=false
SHOW_SUMMARY_PAGE=false
SHOW_REQUIRED_CONFIG_TOOL_PAGE=false
SHOW_OPTIONAL_CONFIG_TOOL_PAGE=false
```

```
SHOW_RELEASE_NOTES=false
SHOW_ROOTSH_CONFIRMATION=false
SHOW_END_SESSION_PAGE=false
SHOW_EXIT_CONFIRMATION=false
NEXT_SESSION=false
NEXT_SESSION_ON_FAIL=false
SHOW_DEINSTALL_CONFIRMATION=false
SHOW_DEINSTALL_PROGRESS=false
ACCEPT_LICENSE_AGREEMENT=true
RESTART_SYSTEM=<Value Unspecified>
CLUSTER_NODES=<Value Unspecified>

PreReqConfigSelections=""
n_ValidationPreReqConfigSelections=0
TOPLEVEL_COMPONENT={"oracle.tip.intg","9.0.4.0.0"}
DEINSTALL_LIST={"oracle.tip.intg","9.0.4.0.0"}
s_startupProcess="Identity Management Access"

OIDhost="oid_host"
OIDport="oid_port"
# szOIDwithSSLStatus Can be set to "Y"
szOIDwithSSLStatus="N"
szl_OrgInfo={"ipdev"}
szl_InstanceInformation={core12345}
nValidationOID2=0
bMaskValidationOID2=false

szlSpecifyOIDLogin={"cn=orcladmin", "password"}
nValidationOID=0
bMaskValidationOID=false

szl_RepositoryUserInput={"host:port:servicename:infrastructureGlobalDBName"}
nValidationRepository=0
bMaskValidationRepository=false

nValidationOrgInfo=0
nValidationMD=0
nValidationInstanceInfo=0
nValidationOID=0
```

## インストールと構成に関するトラブルシューティング

この項では、Oracle Application Server ProcessConnect のインストール時に発生する問題のトラブルシューティング方法を説明します。

### ProcessConnect Configuration Assistant のエラーのトラブルシューティング

ProcessConnect Configuration Assistant (3-9 ページのステップ 19 の説明を参照) を使用してインストール作業を実行するときにエラーが発生した場合は、次の手順に従って ProcessConnect Configuration Assistant を手動で実行してください。

1. oraInventory/logs ディレクトリ内にある最新の installActionsYEAR\_MM\_DD\_TIME.log ファイルの内容を確認します。
2. ログ・ファイル内で Oracle Application Server ProcessConnect のエラー・コード (AIP-52000 ~ AIP-52999) をチェックします。

```
AIP - 52000 Updating Repository information is failed.  
Cause : $ORACLE_HOME/config/iasschema.xml may have ProcessConnect specific  
entries. Make sure that iAS 9.0.4 middle tier is installed properly.
```

```
AIP - 52001 ProcessConnect Seed creation is failed  
Cause : The following could be the reason  
1.Oracle Application Server Metadata Repository may not contain ProcessConnect  
schema.  
2.Invalid ProcessConnect schema password is passed to Configuration Tool.  
3.ProcessConnect metadata is not in a stable state. Recreate Oracle Application  
Server Metadata Repository
```

```
AIP - 52002 Workflow Seed creation is failed  
Cause: Invalid Workflow schema password is passed.
```

```
AIP - 52003 ProcessConnect Instance seed creation failed  
Cause : The following could be the reason  
1.iAS instance name is already seeded in the metadata repository.  
2.Oracle Application Server Metadata Repository may not contain ProcessConnect  
schema.  
3.Invalid ProcessConnect schema password is passed to Configuration Tool.  
4.ProcessConnect metadata is not in a stable state. Recreate Oracle Application  
Server Metadata Repository
```

```
AIP - 52004 Updating targets.xml is failed  
Cause : targets.xml is corrupt in the $ORACLEHOME/sysman/emd directory
```

3. 問題を修正し、ProcessConnect Configuration Assistant を手動で再実行します。
4. 次のスクリプトを実行して、環境変数を設定します。

```
$ORACLE_HOME/ip/install/setenv.sh
```

このスクリプトを実行すると、Oracle Application Server ProcessConnect Configuration Assistant に必要な CLASSPATH 環境変数が設定されます。

5. コマンド・プロンプトから Oracle Application Server ProcessConnect Configuration Assistant を実行します。

```
java oracle.tip.install.ConfigTool oracle_home organization_name ip_passwd wf_
passwd dbhost dbport dbservicename ias_instancename iasadmin_passwd
globalDBName oidUserName oidPassword
```

ここで指定するパラメータの中には、特定の構成のみで有効なものがあります。有効でないパラメータ（インストール中に質問されないか、回答が表示されないパラメータ）については、引数として NULL を入力してください。

パラメータ	指定する値
<i>oracle_home</i>	Oracle ホーム・ディレクトリのパス
<i>organization_name</i>	NULL
<i>ip_passwd</i>	Oracle Application Server ProcessConnect スキーマのパスワード <sup>1</sup>
<i>wf_passwd</i>	Oracle Workflow スキーマのパスワード <sup>1</sup>
<i>dbhost</i>	Oracle Application Server Metadata Repository のホスト名 <sup>1</sup>
<i>dbport</i>	Oracle Application Server Metadata Repository のポート番号 <sup>1</sup>
<i>dbservicename</i>	Oracle Application Server Metadata Repository のデータベース・サービス名 <sup>1</sup>
<i>ias_instancename</i>	Oracle Application Server 中間層のインスタンス名 インスタンス名は、IASNAME エントリの下の \$ORACLE_HOME/config/ias.properties にあります。
<i>iasadmin_passwd</i>	Oracle Application Server 中間層インスタンスの管理者 (iasadmin) パスワード
<i>globalDBName</i>	Oracle Internet Directory に登録された Oracle Application Server Metadata Repository のグローバル・データベース名 (例: iasdb.us.oracle.com)
<i>oidUserName</i>	Oracle Internet Directory のユーザー名
<i>oidPassword</i>	Oracle Internet Directory のパスワード

<sup>1</sup> 3-6 ページのステップ 4 で構成オプションとして「Identity Management Access」を選択した場合は、NULL を指定します。NULL の場合、大文字と小文字が区別されません。





---

# 索引

## C

---

CICS アダプタ

インストール, 3-4

Configuration Assistant

インストール後の作業, 3-9

## F

---

FTP アダプタ

インストール, 3-3

## H

---

HTTP アダプタ

インストール, 3-3

## I

---

ias\_admin パスワード, 3-9

Identity Management Access

Oracle Application Server ProcessConnect のインストール中に構成する, 3-5

Oracle Application Server ProcessConnect の構成オプション, 1-4, 1-5, 3-5, 3-6, 3-19

IMS/DB アダプタ

インストール, 3-4

IMS/TM アダプタ

インストール, 3-4

## J

---

J2EE and Web Cache

Oracle Application Server ProcessConnect と同じ  
Oracle ホームにインストールする, 3-3

Oracle Application Server ProcessConnect を使用する  
ために必要, 1-2, 2-3, 3-2, 3-3

概要, 1-2

中間層へのインストール, 1-5

JavaDoc

位置, 3-14

J.D. Edwards OneWorld XE アダプタ

インストール, 3-4

JMS アダプタ

インストール, 3-3

## N

---

NLS, 「グローバル化のサポート」を参照

## O

---

Oracle Application Server Integration アダプタ

インストール, 3-10

インストール・オプション, 3-4

Oracle Application Server Metadata Repository

Identity Management Access を使用しない構成,  
3-6

Identity Management Access を使用する構成, 3-7

Oracle Application Server ProcessConnect スキーマ  
とともに使用, 1-4

Oracle Application Server ProcessConnect を使用する  
ために必要, 1-2

インストール中に構成する, 3-5

必要なバージョン, 1-5, 2-6

要件, 2-6

Oracle Application Server ProcessConnect  
J2EE and Web Cache と同じ Oracle ホームにインストールする, 3-3  
J2EE and Web Cache の要件, 1-2, 2-3, 3-2, 3-3  
Oracle Application Server Metadata Repository 内のスキーマ, 1-4  
Oracle Application Server Metadata Repository の要件, 1-2  
インストール・オプション, 3-3  
インストール後のコンポーネントの場所, 1-2  
インストールの概要, 1-2  
インストールのデプロイのシナリオ, 1-3  
システムの要件, 2-5  
スキーマのパスワード, 2-4, 3-6  
ディレクトリ構造, 3-14  
必要なすべてのコンポーネントを同じホストにインストールする, 1-3  
Oracle Application Server ProcessConnect ユーザー・インタフェース・ツール  
アクセス, 3-13  
Oracle Application Server Repository Creation Assistant (RepCA)  
Oracle Application Server Metadata Repository として使用するために Oracle9i Enterprise Edition を構成する, 1-4, 1-5, 2-2, 2-11, 3-8  
Oracle E-Business Suite 11i  
Oracle Workflow および Oracle Application Server ProcessConnect といっしょに使用するときの要件, 2-10  
Oracle Enterprise Manager Application Server Control  
アクセス, 3-13  
Oracle Workflow  
Oracle Application Server ProcessConnect および Oracle Application Server InterConnect とともに使用する場合, 2-10  
スキーマのパスワード, 2-4, 3-6  
追加の言語のインストール, 2-8  
要件, 2-10  
Oracle9i Enterprise Edition  
Oracle Application Server ProcessConnect とともにデプロイ, 1-4  
インストールの概要, 1-5  
OracleAS Infrastructure 10g  
Oracle Application Server ProcessConnect とともにデプロイ, 1-4  
インストールまたはアップグレードの概要, 1-5

Oracle データベース・アダプタ  
インストール, 3-3  
Oracle ホーム  
制限, 3-2  
要件, 3-3

---

## P

PeopleSoft 8 アダプタ  
インストール, 3-4

---

## R

RepCA, 「Oracle Application Server Repository Creation Assistant (RepCA)」を参照  
RosettaNet パートナ・インタフェース・プロセス (PIP)  
Oracle Technology Network Japan から提供, 2-7  
サポート, 2-7

---

## S

SAP R/3 アダプタ  
インストール, 3-4  
Siebel 2000 アダプタ  
インストール, 3-4

---

## T

Tuxedo アダプタ  
インストール, 3-4

---

## U

UTF8 キャラクタ・セット  
グローバル化をサポートするために必要, 2-10

---

## V

VSAM アダプタ  
インストール, 3-4

## W

---

Web サービス・アダプタ  
インストール, 3-3  
Web ブラウザの要件, 2-6

## あ

---

アダプタ、「アプリケーション・アダプタ」または「テクノロジー・アダプタ」を参照  
アドバンスト・キューイング・アダプタ  
インストール, 3-3  
アプリケーション・アダプタ  
CICS アダプタ, 3-4  
IMS/DB アダプタ, 3-4  
IMS/TM アダプタ, 3-4  
J.D. Edwards OneWorld XE アダプタ, 3-4  
Oracle Application Server ProcessConnect と Oracle Application Server InterConnect 間で共有できない, 2-7  
Oracle Application Server ProcessConnect と Oracle9iAS InterConnect 間で共有できない, 2-7  
Oracle Application Server ProcessConnect と Oracle9iAS InterConnect または Oracle Application Server InterConnect 間での非互換性, 2-7  
PeopleSoft 8 アダプタ, 3-4  
SAP R/3, 3-4  
Siebel 2000 アダプタ, 3-4  
Tuxedo アダプタ, 3-4  
VSAM アダプタ, 3-4  
インストール・オプションとして Oracle Application Server 統合アダプタを指定して、選択的にインストールされる, 3-4  
事前にインストールされた Oracle Application Server ProcessConnect と同じホームにインストールする必要がある, 3-4  
追加のインストール作業, 3-11

## い

---

移行

Oracle Application Server InterConnect から Oracle Application Server ProcessConnect への移行はサポートされない, 2-7

Oracle9iAS InterConnect から Oracle Application Server ProcessConnect への移行はサポートされない, 2-7

インストール

CICS アダプタ, 3-4  
FTP アダプタ, 3-3  
HTTP アダプタ, 3-3  
IMS/DB アダプタ, 3-4  
IMS/TM アダプタ, 3-4  
J.D. Edwards OneWorld XE アダプタ, 3-4  
JMS アダプタ, 3-3  
Oracle Application Server Integration アダプタ, 3-10  
Oracle Application Server InterConnect から Oracle Application Server ProcessConnect への移行はサポートされない, 2-7  
Oracle Application Server Metadata Repository の構成, 3-5  
Oracle Application Server ProcessConnect と「J2EE and Web Cache」インストール・タイプを同じ Oracle ホームにインストールするという要件, 2-5, 3-3  
Oracle Application Server ProcessConnect のすべてのコンポーネントを同じホストにインストールする, 1-3  
Oracle9iAS InterConnect から Oracle Application Server ProcessConnect への移行はサポートされない, 2-7  
Oracle データベース・アダプタ, 3-3  
Oracle ホームに関する制限, 3-2  
PeopleSoft 8 アダプタ, 3-4  
SAP R/3 アダプタ, 3-4  
Siebel 2000 アダプタ, 3-4  
Tuxedo アダプタ, 3-4  
VSAM アダプタ, 3-4  
Web サービス・アダプタ, 3-3  
アドバンスト・キューイング・アダプタ, 3-3  
インストール後の構成ツール, 3-9  
インストール前の準備作業, 2-2  
概要, 1-2  
再インストールに関する制限, 3-14  
サイレント, 3-15  
作業, 3-2  
作業の概要, 1-5  
削除作業, 3-14  
システムの要件, 2-5  
ディレクトリ構造, 3-14

- デプロイのシナリオ, 1-3
- 電子メール・アダプタ, 3-3
- トラブルシューティング, 3-18
- 非対話式, 3-15
- インストール後
  - Configuration Assistant, 3-9
  - 確認作業, 3-13
- インストール前の準備作業
  - J2EE and Web Cache のインストール, 2-3
  - Oracle Enterprise Manager Application Server Control の停止, 2-5
  - 適正な Oracle Application Server Metadata Repository のインストールまたはアップグレード, 2-2
  - ユーザー名とパスワードの取得, 2-3
- インストール・ログ・ファイル
  - 位置, 3-18

## お

---

- オペレーティング・システムに必要, 2-6
- オペレーティング・システムの要件, 2-6
  - オペレーティング・システム用のパッチ, 2-6
  - カーネル・パラメータの設定, 2-6

## か

---

- カーネル・パラメータ, 2-6

## き

---

- キャラクタ・セット
  - グローバル化バージョンのサポートの要件, 2-10

## く

---

- グローバル化バージョンのサポート
  - UTF8 データベース・キャラクタ・セットの要件, 2-10
  - データベースの要件, 2-10

## け

---

- 言語
  - Oracle Workflow で使用する追加の言語のインストール, 2-8

## さ

---

- 削除
  - 作業, 3-14

## し

---

- システム
  - 要件, 2-5

## そ

---

- 組織名, 3-13

## ち

---

- 中間層, 1-2

## て

---

- ディスク領域の要件, 2-6
- ディレクトリ構造
  - Oracle Application Server ProcessConnect, 3-14
- テクノロジ・アダプタ
  - FTP アダプタ, 3-3
  - HTTP アダプタ, 3-3
  - JMS アダプタ, 3-3
  - Oracle Application Server ProcessConnect とともに自動的にインストールされる, 3-3
  - Oracle データベース・アダプタ, 3-3
  - Web サービス・アダプタ, 3-3
  - アドバンスト・キューイング・アダプタ, 3-3
  - 電子メール・アダプタ, 3-3
- デプロイのシナリオ
  - Oracle Application Server ProcessConnect, 1-3
  - Oracle Application Server ProcessConnect と Oracle9i Enterprise Edition, 1-4
  - Oracle Application Server ProcessConnect と OracleAS Infrastructure 10g, 1-4
- 電子メール・アダプタ
  - インストール, 3-3

## と

---

- ドキュメント
  - 位置, 3-14

トラブルシューティング  
インストール時の問題, 3-18

## は

---

パスワード  
ias\_admin ユーザー名, 3-9  
Oracle Application Server ProcessConnect スキーマ, 2-4, 3-6  
Oracle Application Server ProcessConnect ユーザー・インタフェース・ツール, 3-13  
Oracle Enterprise Manager Application Server Control, 3-13  
Oracle Workflow スキーマ, 2-4, 3-6  
パッチ, 2-6

## ひ

---

必要な設定, 2-6

## ふ

---

ブラウザの要件, 2-6

## め

---

メモリーの要件, 2-5

## よ

---

要件  
Oracle Application Server Metadata Repository, 2-6  
Oracle Workflow, 2-10  
Oracle ホーム, 2-5  
Web ブラウザ, 2-6  
オペレーティング・システム, 2-6  
グローバル化のサポート, 2-10  
システム, 2-5  
ディスク領域, 2-6  
メモリー, 2-5

## れ

---

レスポンス・ファイル, 3-15

## ろ

---

ログ・ファイル  
位置, 3-18

